

# AI活用トマト栽培研究

静大が「科学カフェ」で紹介

浜松



糖度の違うトマトを食べ比べる参加者  
=19日、浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

地球に優しい循環型社会の実現を目指す静岡大グリーン科学技術研究所は19日、研究内容を一般向けに紹介するグリーンサイエンスカフェを浜松市中区の同大浜松キャンパスで開いた。人工知能（AI）をトマト栽培にどのように生かせるかについて、同大情報学部の峰野博史准教授が紹介した。峰野准教授は植物のしおれ具合をAIによつて予測し、与える水の量を調整して高品質な農作物の生産に応用させる研究に取り組んでいる。上手な水やりによつて糖度を高められるトマト栽培

について、植物の状態や気象環境などのデータを大量に集め、AIに学習させていることを参加者に説明した。峰野准教授は「データをAIが分析して農業支援システムが確立できれば、これまで農家の経験や勘に頼つていた農業を効率化できる」と述べた。

親子連れなど市内外から約40人が参加し、糖度の違うトマトを食べ比べたり研究室を見学したりした。愛知県江南市の高校3年富岡剛大さん（17）は「大学で学びたい分野と関連があり、とても参考になつた」と話した。